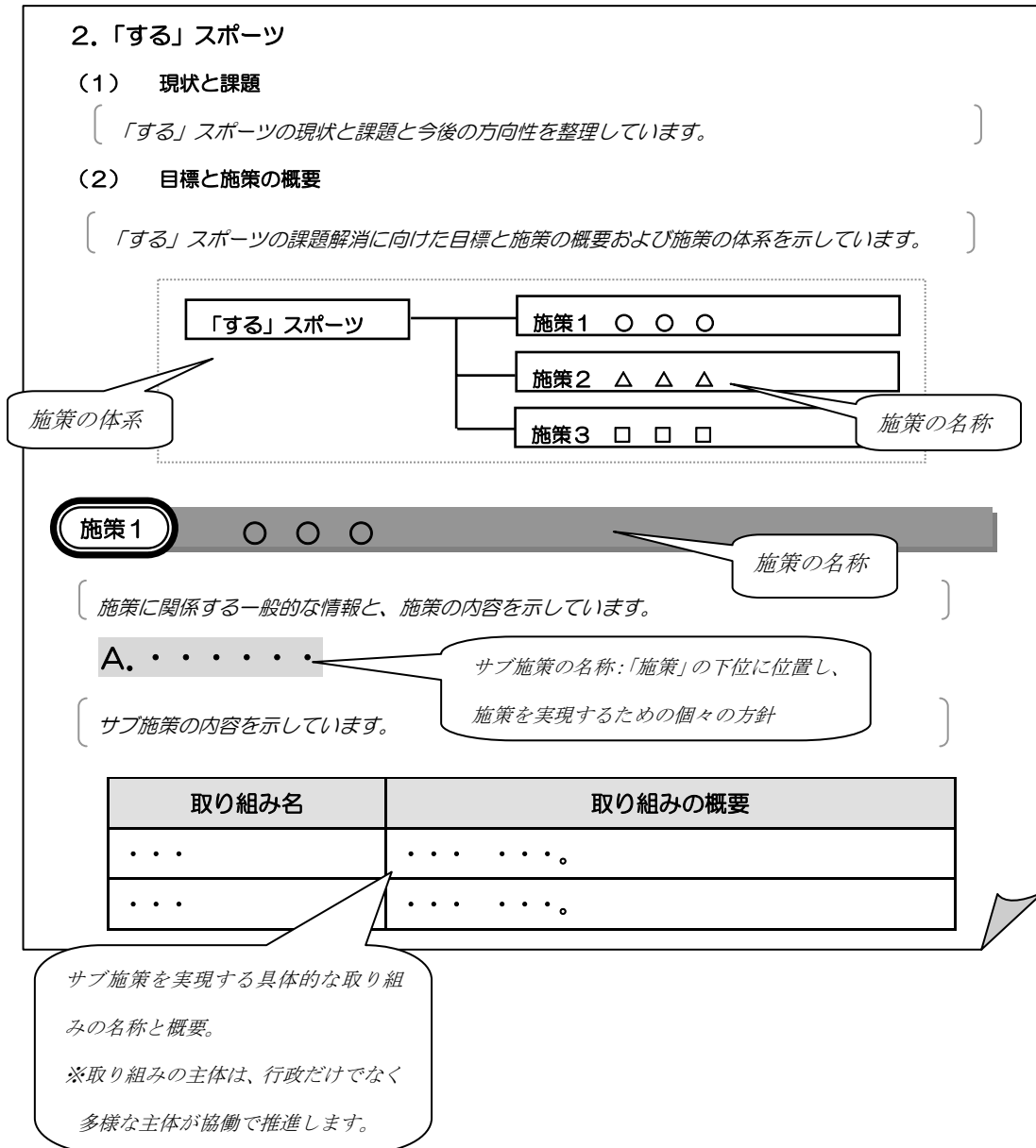


### 第3章 3つの場面と施策の概要

## 【第3章の見方】

現状と課題ならびに目標と施策の概要を、スポーツの「する」、「みる」、「支える」という3つの場面に分けて第3章に整理しています。

第3章の見方は次のとおりです。



## 1. 3つの場面と施策の展開

町田市は、学校、企業を中心としたこれまでのスポーツの活動から、スポーツコミュニティを中心とした活動に発展的に転換していきます。

このため町田市では、スポーツを楽しむ3つの場面（「する」スポーツ、「みる」スポーツ、スポーツを「支える」）それぞれについて、将来の目標を実現するための施策を展開し、具体的な取り組みを検討します。



「する」スポーツ

「みる」スポーツ



スポーツを「支える」

## 2. 「する」スポーツ

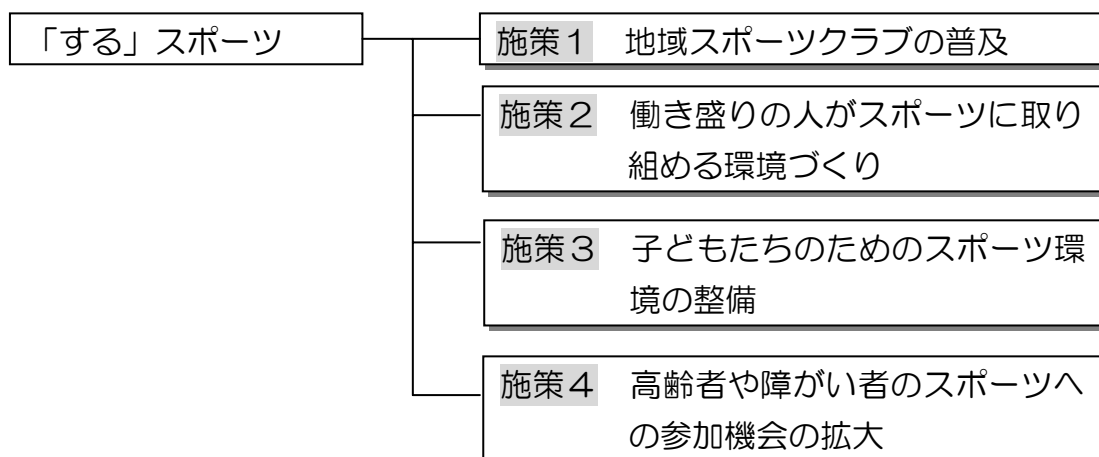
### (1) 現状と課題

少子高齢化など社会・経済情勢が大きく変化する中、学校や企業を中心としたこれまでのスポーツは岐路に立っており、新たな観点からスポーツ振興の方策が求められているところです。市民スポーツにおいても、公共スポーツ施設や学校開放の利用者の固定化が進み、市が提供するスポーツプログラムでも、結果として参加者は特定の市民に偏ってしまっている現状があります。一方で、地域における学校、家庭、スポーツ団体等関係者の協力が十分とはいえ、スポーツ活動を地域全体に広げ、継続的な実施を定着させる上での大きな課題となっています。

今後は、市民一人ひとりが主体となって、スポーツ文化を地域の中で育くみ、だれもが気軽に、それぞれの立場に合わせてスポーツに親しめる環境が求められています。

### (2) 目標と施策の概要

市民一人ひとりが主体となってスポーツ文化を地域で育てていくために、多様な世代が、多様な種目を、多様なレベルで楽しむためのスポーツコミュニティの仕組みをつくり、市民それぞれのライフステージや身体の状態に応じたスポーツを楽しむことのできる環境の整備を進めます。



## 施策1

### 地域スポーツクラブの普及

地域スポーツクラブとは、人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブです。

地域住民の方々により自主的・主体的に運営され、自ら育てていける環境づくりを整備するとともに、地域スポーツクラブの活動に対して施設の使用基準の見直しなど側面的な支援を実施します。

#### A) 地域スポーツクラブの育成

市民が気軽に住まいの近くでスポーツに取り組めるように、地域スポーツクラブの設立を支援するとともに、それぞれのクラブが自主的・主体的に活発な活動を行うことを目指します。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
クラブの設立運営支援	地域にあるスポーツ資源を考慮し、地域スポーツクラブの設立に向けたPRや支援を実施します。
地域の施設や既存スポーツ団体との連携	大学や企業、またスポーツ団体との連携により、公共のスポーツ施設のみならず、地域でスポーツを楽しめる環境づくりを進めます。

#### B) 地域の施設を活用したプログラム開発の支援

地域にあるさまざまな施設を活用し、市民が継続的に取り組めるプログラムの開発・普及を目指します。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
地域の特性に合わせた運動プログラム開発の支援	クラブ活動の中で、地域住民が共に地域の特性を考慮した運動プログラムを開発することを支援します。

### C) 地域での施設利用機会の拡大

地域の実情に応じてスポーツ広場等施設の管理を行えるように制度の見直しを行います。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
スポーツ広場のあり方の検討 (「支える」にも掲載)	運営委員会形式から地域スポーツクラブへの転換を検討します。
クラブ体制に向けた学校開放の制度や開放運営委員会のあり方の検討 (「支える」にも掲載)	地域スポーツクラブ体制への移行に向け、既存の制度や組織のあり方を検討します。

### D) 地域スポーツクラブの普及に向けたクラブハウスの整備

地域スポーツクラブの活動の拠点となる施設を整備します。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
クラブハウスの整備 (「支える」にも掲載)	既存の施設を活用するなど、活動の拠点となるクラブハウスを地域に整備します。

## 施策2

### 働き盛りの人がスポーツに取り組める環境づくり

20歳代においては、学校を卒業すると同時にスポーツをする機会が減るため、この年代に対してスポーツに取り組めるような環境が必要となってきました。30歳～50歳くらいの年代は、生活習慣病の罹患率が増加し始める年代です。2008年度(平成20年度)から特定健康診査・特定保健指導<sup>7</sup>が始まるなど、健康づくりにより医療費を抑制する必要性が

<sup>7</sup>特定健康診査・特定保健指導: 2008年度からの医療制度改革にともない、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)に着目した「特定健康診査」の制度が始まった。腹囲に加え、脂質、血圧、血糖のうち2項目以上該当すると、メタボリックシンドロームと診断される。特定保健指導は、特定健康診査の結果、このままだと深刻な生活習慣病が発症するリスクが高いと判断され、かつ生活習慣の改善により予防効果が高いと判断された人を対象に実施される、生活習慣病予防の支援のこと。

叫ばれており、この年代の人たちのスポーツ実施率を向上させることが、将来の医療費の抑制につながるものと考えられています。

また、スポーツをすることは、職場などでのストレスを解消し、心身の健康づくりにも有効です。

このために、おおよそ20歳～50歳くらいの働き盛りの人がスポーツに取り組むことができるように、現状の施設の利用形態を見直すとともに、健康づくりや体力向上のために、気軽に取り組める運動プログラムを提供していきます。

#### A) 働き盛りの人も利用しやすい施設の運営

仕事が忙しく、時間も少なくスポーツの機会が少ない働き盛り世代がスポーツに取り組めるように、施設の利用基準の見直しを行います。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
働き盛りの人が利用しやすい施設の利用基準の見直し	働き盛り世代がスポーツに取り組みやすくなるように、利用時間等の施設の利用基準を検討します。

#### B) 働き盛りの人が気軽に取り組める運動プログラムの提供

働き盛りの人が、自分の体力や運動能力に応じて適切な運動を行うことができるような環境を整備します。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
健康維持と一体化した運動プログラムの提供	体力に応じて、個々で取り組めるきめ細かな運動メニューにより、個人が目標をもって健康維持や体力向上に取り組める運動プログラムを提供します。

### 施策3

#### 子どもたちのためのスポーツ環境の整備

子どもの時期に活発な身体活動を行うことは、成長・発達に必要な体力を高めることはもとより、スポーツに親しむ身体的能力の基礎を養い、より健康な状態をつくっていくことにつながります。

学校のみならず、地域の人々とともに子どもを育てていくという視点に立った工夫が求められています。

このような状況の中で、子どもたちのスポーツ活動についても、学校、家庭、地域社会がそれぞれの教育機能を発揮することを前提に、地域との連携を図りながら、学校内外を通じた子どもたちのスポーツ活動を充実します。

#### A) 学校と地域の連携

部活動と地域と一緒に練習するなど、学校と地域がスポーツを通して連携する仕組みを導入します。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
地域と部活動の連携	地域の多様な人とスポーツを楽しむなど、地域とともに部活動を運営します。
部活動外部指導員制度などの拡充 (「支える」にも掲載)	子どもたちが学校や地域で多様な指導を受けられることができるよう、ボランティアやスポーツクラブとの連携を進めます。
複数校合同の部活動の仕組みづくり	各校の状況を踏まえ、部活動に関する多様なニーズに応えられるよう、複数校が合同で行う部活動の仕組みづくりを進めます。

#### B) 子どもたちのスポーツのきっかけづくり

放課後対策との連携や安全に運動できる場の確保を通じて、スポーツを楽しむ子どもを増やします。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
子どもの居場所づくりとの連携	放課後対策と連携して、ボランティア等による子どもたちのスポーツ指導を行います。
安全に運動できる場の提供	校庭やスポーツ広場の芝生化など、安全に運動ができる場を提供します。



「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツをしたり、みたり、親しむことのできる環境」を創出するためには、高齢者や障がいのある人も含めて、市民の主体的な「する」スポーツを促す新たな方策が必要となっています。

このために、高齢者や障がいのある人に対する市民理解を促進し、バリアフリーが広がるよう努めるとともに、安全面・健康面に配慮したスポーツが楽しめる環境づくりを進めます。

#### A) 高齢者や障がい者がスポーツを楽しめる環境づくり

高齢者や障がいのある人でも、地域においてスポーツを楽しむことができるスポーツの普及やそのための環境を整備します。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
ニュースポーツの振興	経験や技術、体力がない人でも、比較的参加が簡単なスポーツの普及を進めます。
高齢者・障がい者のスポーツ教室・プログラムサービスの提供	高齢者や障がいのある人でも、安全面、健康面に配慮してスポーツを楽しめるスポーツ教室やプログラムを提供します。
障害者スポーツ指導員など指導者の育成 (「支える」にも掲載)	障害者スポーツ指導員などの指導者の育成ならびに活躍の場を提供します。
公共スポーツ施設のユニバーサルデザイン <sup>8</sup> 化 (「支える」にも掲載)	だれもが安全に施設を利用できるように、公共スポーツ施設のユニバーサルデザイン化を進めます。
スポーツノーマライゼーション <sup>9</sup> の推進	高齢者や障がいのある人と健常者が一緒にスポーツができる環境づくりを進めます。

<sup>8</sup> ユニバーサルデザイン:ユニバーサル＝普遍的な、全体の、という言葉が示しているように、「すべての人のためのデザイン」を意味し、年齢や障がいの有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人利用可能であるようにデザインすること。

<sup>9</sup> ノーマライゼーション:北欧から世界へ広まった障がい者福祉の最も重要な理念。障がいのある人を特別視するのではなく、一般社会の中でふつうの生活が送れるような条件を整えるべきであり、共に生きる社会こそノーマルであるという考え。

## B) 障がい者の競技スポーツの推進

障がいのある人がスポーツ選手として競技力の向上をめざすことのできる環境づくりに向け、競技スポーツに励む選手の目標となる大会の支援を行います。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
障がい者の競技スポーツ大会への場の提供	障がいのある人が参加する競技スポーツ大会に優先的に競技場を提供します。



【町田市障がい者スポーツ大会】

### 3. 「みる」スポーツ

#### (1) 現状と課題

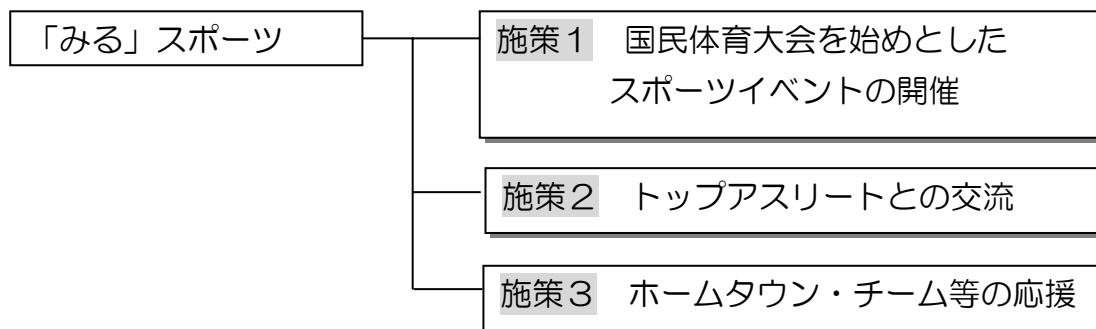
町田市は、周辺に200万人近くもの人口が集積し、サッカーや野球などスポーツが盛んな地域であるにもかかわらず、スポーツ振興によるまちの活性化の核となるものがありませんでした。客席など「みる」機能を備えたスポーツ施設でも、市民利用を前提としていたため、「みる」機能は十分に活用されていませんでした。

今後は、スポーツとのかかわり方が多様化する中、「みる」スポーツについても積極的に振興し、都市・テーマ型スポーツコミュニティを核として、みたり・応援したり、競技が終わった後もコミュニケーションができる環境づくりが求められていると考えています。

#### (2) 目標と施策の概要

高いレベルのパフォーマンスを観戦することで感動やあこがれが生まれたり、トップアスリートから直接指導を受けるなどの交流を深めたりすることで、スポーツをする動機づけにもなると考えられます。

ホームタウン・チームの応援などを通じて市民の交流を促進し、(社)町田市観光コンベンション協会など関係団体と連携しながら、まちの一体感を演出します。



2013年に東京都において第68回国民体育大会（以下、「国体」という。）が開催され、町田市では、サッカー、バレーボール、軟式野球、バドミントンの4競技が実施される予定です。

国体の開催により、競技力の向上、スポーツ施設の整備・充実、地域の活性化が期待されています。

このためには、市民の一人ひとりが「する」、「みる」、「支える」といったさまざまな形で大会に参画することが望まれます。そのため、国体開催に関する認知度や気運を高める活動を行っていきます。また、「スポーツのまち 町田」を広くアピールするため、町田市で開催される広域的なスポーツ大会のブランド化を進めます。

#### A) 東京国体<sup>10</sup>の開催

東京国体開催に向けて、実行委員会を組織し大会準備を進めるとともに、小野路球場、陸上競技場、総合体育館などの既存施設の改修を行います。

（このための取り組み）

取り組み名	取り組みの概要
東京国体開催に向けた施設の整備	小野路球場や陸上競技場の改修、総合体育館の電光掲示板等改修を実施します。
実行委員会の設立及び運営	東京国体の開催に向けて、町田市の実行委員会を設置し、運営します。

<sup>10</sup>国体：国民体育大会のことで、(財)日本体育協会、国(文部科学省)、開催地都道府県の三者による共同開催で行われ、「各都道府県対抗によるわが国最大の総合的な競技大会であり、国民スポーツの祭典である」と定義される。国体の開催により、競技力の向上、スポーツ組織の充実、スポーツ施設の整備・充実、地域の活性化が期待されている。

## B) 広域スポーツのブランド化

マラソンや駅伝の公認ロードレース化など広域スポーツのブランド化を進め、町田市の知名度の向上ならびに参加者の拡大を図ります。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
市民が参加する多様なイベントの開催	種目別の競技会に加え、市民が企画し参加するイベントの開催を支援します。
広域スポーツの担い手の育成	スポーツイベントを支えるボランティア人材の育成を図るとともに、スポーツ団体との連携を強化します。
ブランド化への取り組み	町田市の特性を生かした独自のスポーツ大会や、スポンサーとのタイアップによるイベント開催、既存の大会を公認の大会にするなど知名度を上げる工夫を提案します。

### 施策2

#### トップアスリートとの交流

トップスポーツチームやトップアスリートを“わがまちのチーム”などとして、市民が一体感をもって応援し、支えていくことができるような環境が求められています。

このために、地域のスポーツ団体や自治会・商店街などの地域団体と連携することにより、スポーツの地域密着事業を効果的に進め、トップアスリートとの交流の促進を図ります。

#### A) トップアスリートと交流できる環境づくり

スポーツ振興を通じた一体感あるまちづくりを目指し、議論や情報交換が活発に行われる環境づくりを進めるとともに、市民とプロスポーツチームやアスリートとの交流を進めます。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
プロスポーツチームとの交流機会の拡大	プロスポーツチームなどによるスポーツ講座の開催、学校訪問、地域イベントへの積極的な参加などをうながし、その活動をPRします。
スポーツフォーラムの開催	スポーツに関するさまざまなテーマで「スポーツフォーラム」を開催し、議論や情報交換を通じて、新たなスポーツ施策を市民主体で生み出すきっかけを創出します。

#### B) スポーツイベントの集客増に向けた連携強化

(社) 町田市観光コンベンション協会を中心として、スポーツ観戦者の増加を目指し、関係団体との連携強化によりスポーツ観戦事業等、魅力的な企画を提案します。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
スポーツ観戦の拡大	魅力あるスポーツイベントの企画や集客のための広報活動を実施します。
スポーツ・ツーリズム <sup>11</sup> の振興	スポーツを軸とした観光振興策を企画します。

<sup>11</sup>スポーツ・ツーリズム：「スポーツ参加、観戦を主目的としていること」さらに「宿泊を伴いあるいは24時間以上、その目的地に滞在すること」の2点が主要な柱となるツーリズム(観光)の概念。

### 施策3

## ホームタウン・チーム等の応援

ホームタウン・チームへの支援は、郷土への愛着や地域社会の連帯感を強めていくものと考えられます。一方で、トップアスリートは、体力の衰えやけがなどで20代、30代で選手生命を終えることも少なくないことから、安心して活躍するには、セカンドキャリアや生活支援ということも重要な要素となります。

今後、ホームタウン・チームを支援する協議会等を組織し、それらを通じて積極的に検討を行い、計画的な活性化方策を練ることが必要となります。また、選手が安心して活躍できるよう市民一体となってサポートしていく体制の構築に向けて取り組みます。

### A) ホームタウン・チームの支援

ホームタウン・チームの認知度向上や活発なコミュニティ活動を目指し、民間主体で運営されるホームタウン・チーム協議会等の支援を行います。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
ホームタウン・チーム支援組織の活性化	地域に根付いたホームタウン・チームとなるように、ホームタウン・チーム協議会等を支援します。
アスリートが安心して活躍できる仕組みの検討	トップアスリートが安心して、スポーツに取り組めるように、セカンドキャリアや生活支援の仕組みについて検討します。

## 4. スポーツを「支える」

### (1) 現状と課題

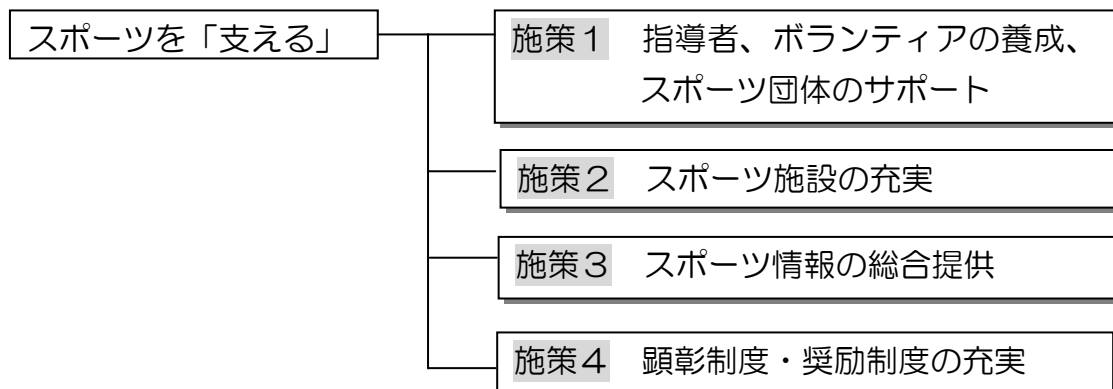
だれもが多様なスポーツをそれぞれのレベルで取り組み、そして楽しむためには、リーダーや指導者の確保・育成が課題となります。また、スポーツに関するさまざまな情報を得たいと思っても、どこにアクセスすればよいのかよく分からないという意見も聞かれ、スポーツ情報の提供のあり方に関して一層の取り組みが必要であると考えています。スポーツ施設についても、配置の偏りや既存施設の老朽化などに対応していく必要があります。

今後は、スポーツ情報を一元的に収集・整理し、多様な手段で提供する仕組みが求められています。また、スポーツ施設に関しては、老朽化の進む施設の長寿命化が必要であり、計画的な施設配置が求められています。

### (2) 目標と施策の概要

継続してスポーツを楽しむ環境づくりやその支援を進めるためには、地域のスポーツ環境を支える市民の活動が重要な鍵となります。さらに、スポーツを始めるきっかけの要素として、スポーツについて手軽に「知る」ことができることも大切です。

2013年には、東京国体の開催が予定されており、本計画における計画期間の前半は、国体に向けた施設整備を優先して取り組む必要があります。同時に、計画期間の後半に向けて、町田市スポーツ施設のあり方を明確にし、施設配置計画の検討を進めておく必要があります。





## 施策1

### 指導者、ボランティアの養成、スポーツ団体のサポート

スポーツ活動の広がりやかかわり方の多様化に対応していくためには、スポーツの魅力を伝えることができる指導者が地域に必要となります。このために、より多くの指導者を多方面から確保し、さまざまな場面で活躍できる指導者確保の仕組みづくりが必要であると考えています。

このために、スポーツクラブ運営の中心となるクラブマネージャーや指導者、スポーツボランティアの育成及び活躍の場の提供を進めるとともに、指導者の資質の向上に努めます。また、地域のスポーツ指導者の情報を提供し、指導者と指導して欲しい人を結び付ける仕組みをつくります。

#### A) クラブマネジメントの確立

地域スポーツクラブをマネジメントできる人材が必要であることから、コーディネーターとなる人を育成します。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
コーディネーターの育成	スポーツクラブをコーディネートするための研修を実施します。

## B) スポーツ指導者やスタッフの育成・充実

関係機関と連携し、スポーツ指導者・体育指導委員等の育成や充実を図ります。また、スポーツを行う際の健康面・安全面に配慮したスタッフの参加・協力体制の確立を目指します。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
スポーツスタッフの参加・協力体制の確立	指導者の育成、スポーツボランティアや救急救命士・看護師等の活躍の場や、大学との連携体制を整備します。
部活動外部指導員制度などの拡充 (「する」にも掲載)	子どもたちが学校や地域で多様な指導を受けられることができるよう、ボランティアやスポーツクラブの人材との連携を進めます。
障害者スポーツ指導員など指導者の育成 (「する」にも掲載)	障害者スポーツ指導員などの指導者の育成ならびに活躍の場を提供します。

## C) ライフステージ別スポーツプログラムの開発・普及

ライフステージ別プログラムの開発など、スポーツプログラムの開発の検討・普及を進めます。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
ライフスタイルに応じたプログラムの提供	大学連携による公開指導など、専門機関や競技団体によるプログラムの提供を拡充します。

生活の中にスポーツを定着させるためには、気軽に利用できるスポーツ施設の充実は欠かせません。また、「みる」スポーツを充実するには、広域的な大会の開催やトップアスリートが活躍するにふさわしい規格や規模の施設が必要となります。

そのために、既存のスポーツ施設の有効活用に向けた整備や、大学や企業の協力による利用施設の拡充などの環境整備を進めます。また、サインボードやバスケットリングの設置などのちょっとした工夫によって、地域センター、公園、道路などといった市民の身近な施設でスポーツに取り組める環境づくりを進めます。

#### A) 既存スポーツ施設の有効活用

既存施設の特性に応じた活用や質の向上を図りながら、利用率ならびに利用者満足度の向上を目指します。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
長寿命化の検討	更新期を迎える施設についても費用対効果の高い施設整備を進めるために、施設の長寿命化の検討を進めます。
施設の特性による棲み分け	主に地域型スポーツコミュニティで利用する施設と、都市・テーマ型スポーツコミュニティで利用する施設の棲み分けを検討します。
施設の魅力向上	利用者がいつも気持ちよく施設を利用できるような施設管理・保全の仕組みを導入します。
東京国体後の施設利用の検討	東京国体に向けて整備する施設の有効活用策を検討します。

## B) 市内施設の有効活用

地域センターや公園、道路、学校施設など市内施設の有効活用により、身近な場所でスポーツ振興を図ります。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
公園施設の利用の拡大	公園施設の利用拡大に向け、ニュースポーツなど、気軽に運動ができる場の提供を進めます。
大学や企業との連携による場の提供	大学や企業が所有するスポーツ施設について、市民利用の仕組みを検討します。
身近な場所でのスポーツ利用の拡大	自転車歩行者専用道路や歩行者天国、市街地の遊休地など、身近な場所のスポーツ利用を進めます。
クラブ体制に向けた学校開放の制度や開放運営委員会のあり方の検討 (「する」にも掲載)	地域スポーツクラブ体制への移行に向け、既存の制度や組織のあり方を検討します。
スポーツ広場のあり方の検討 (「する」にも掲載)	運営委員会形式から地域スポーツクラブへの転換を検討します。

## C) 地域スポーツクラブの普及に向けたクラブハウスの整備

地域スポーツクラブの活動の拠点となる施設を整備します。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
クラブハウスの整備 (「する」にも掲載)	既存の施設を活用するなど、活動の拠点となるクラブハウスを地域に整備します。

#### D) 施設の規格・再配置の検討

施設の利用方法を明確にするとともに、多種多様な公式競技にも対応できるように規格・配置の見直しを図り、施設を整備します。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
サッカー・フットサル・ミニバスケットボール等規格への対応	既存の施設を公式競技やプロでも利用できる仕様に整備します。
施設の再配置計画の検討	スポーツ施設のあり方と、それに基づく再配置計画を検討します。
公共スポーツ施設のユニバーサルデザイン化 (「する」にも掲載)	だれもが安全に施設を利用できるように、公共スポーツ施設のユニバーサルデザイン化を進めます。

#### E) アクセスの整備

市内各地に分散するスポーツ施設へのアクセスの向上を図ります。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
スポーツ施設へのアクセスの向上	地域に分散する施設間のアクセス向上を図るため、バス交通の利便性を検討します。
イベント開催時のアクセスの向上	短時間に大量の人が移動する大規模なイベントの開催に際して、観客等のアクセスを確保できる仕組みを検討します。

### 施策3 スポーツ情報の総合提供

スポーツ振興を推進するためには、市の取り組みを広く市民に広めていく必要があります。そのためには、スポーツに関する情報を発信する機能が重要です。

今後、関係団体との情報ネットワークの拡充を図り、有効で価値の高い情報をリアルタイムに収集・整理し、発信できる環境を整えることが不可欠です。このために情報システムの整備充実を図り、有効に活用する必要があります。

#### A) スポーツ情報システムの整備・一元化

スポーツを楽しんでいる人やスポーツを始めようと考えている人が継続的に取り組んでいくために、総合的なスポーツ関連情報や利用者の要望が容易に分かる仕組みを検討します。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
スポーツ情報システムの整備	スポーツの総合情報サイトを立ち上げ総合的な情報を提供します。
利用者の意見を取り入れる仕組みの見直し	施設や市の提供するプログラムに関して、利用者の意見を取り入れる仕組みを見直します。

#### B) スポーツコミュニティの広報・啓発

スポーツコミュニティに関する情報を発信し、市民をはじめ来訪者も含めた交流を促進します。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
スポーツコミュニティの情報発信	インターネット、フリーマガジン、動画の配信など、多様なメディアを活用し、スポーツコミュニティの活動情報を発信します。

## 施策4 顕彰制度・奨励制度の充実

本計画の目指す姿にある、スポーツを通して「魅力的で活力あるまち」を創出するためには、アスリートの活躍をより多くの市民に紹介し、アスリートの栄誉をたたえることが必要です。

このために、より効果的な広報活動に取り組むとともに、顕彰制度を充実し、アスリートの認知度の向上を図り、市民との交流を深めます。

### A) 顕彰事業の創設

全国レベルの活躍に関する情報を発信し、町田ブランドの形成に寄与している個人や団体を顕彰するとともに、一層の広報活動に取り組みます。

(このための取り組み)

取り組み名	取り組みの概要
アスリートの全国的な活躍に関する情報発信の強化	「広報まちだ」のみならず、ホームページを充実するなど、町田市出身や町田市を拠点として全国的に活躍するアスリートの情報の発信を強化します。
まちだスポーツアワードの創設	多くのアスリートが交流し、顕彰するまちだスポーツアワードを創設し、多くの市民とともに、アスリートの栄誉をたたえます。